

第2回小松空港中期ビジョン策定検討委員会 議事概要

日時：令和4年6月2日（木） 13:00～14:30

場所：石川県行政庁舎1110会議室

事務局からの資料説明後、以下の意見交換がなされた。

1. 小松空港の機能強化について

- 小松空港の機能強化は、石川県だけでなく、北陸の今後の発展にとって、非常に重要であり、しっかり議論したい。大胆にチャレンジすること、大胆に投資することも必要と思っている。
- ターミナルビルの収入構造も踏まえ、今後に備える観点からは、国際線の確保・増強が必要であり、そのための施策や施設整備が必要になるのではないかと。
- いつ災害が起こるかわからない日本列島において、道路が寸断され、電車が停まり、港が壊れたとしても、小松空港に新たな滑走路ができれば、小松空港を日本海側の空の防災基地として活用できるのではないかと。

2. 第二滑走路について

- 2030年の訪日外国人旅行者数6000万人という目標を打ち立てるなど、国が観光立国の実現を目指している中で、開港から60年が経過し、日本海側の拠点空港にまで成長した小松空港の今後の発展のためには、国際線を充実し、本格的な国際空港を目指すことが大事ではないかと。小松空港では、自衛隊と民航機とで滑走路を共用しており、民航機の拡充には、民航専用の空港に比べ、多くの労力と時間がかかり、また、防衛上や訓練の観点からの制約もあるところ、第二滑走路を整備することで、解決できるのではないかと。
- 国際線の充実により、本格的な国際空港を目指す観点からも、国防上の観点からも、第二滑走路の整備が必要ではないかと。
- 第二滑走路を整備して、空港を運営した方がよいとの意見が得られるのであれば、第二滑走路を整備し、それに合わせて、ターミナルビルの再設計や移転、空港運営の民間委託の議論をしていくのがよいのではないかと。非常に課題は多いが、チャレンジする価値はあるのではないかと。
- 第二滑走路の整備は、民航機側にとっても、自衛隊側にとっても、良いことのように思うが、巨額の投資をする必要性について、整備主体となる国において、整理していただく必要があるのではないかと。

- 新型コロナウイルス感染症による需要減と北陸新幹線の県内全線開業による需要減への対策を検討し、小松空港の需要が創出・確保されることを前提に、第二滑走路の整備について、検討を進めることになるのではないか。
- 自衛隊との共用空港である小松空港には、長年、地域経済と基地とがバランスよく発展してきた経緯がある。ターミナルビルの老朽化が進む一方で、北陸全体の観光ニーズが高まりつつある中で、今後の地域経済と基地それぞれの発展のバランスを考えると、第二滑走路とターミナルビルの問題は避けては通れないのではないか。地元経済の観点からも、非常に大きなキーポイントになると思うので、しっかりと議論を進めていただきたい。
- 第二滑走路の有無が、空港運営の民間委託やターミナルビルの建て替えのあり方の検討、小松市の土地区画整理事業に影響することから、第二滑走路の要否について、優先して検討を進め、早期に結論を出すべき。
- 第二滑走路の整備には、様々な課題があると思うが、空港隣接地における土地区画整理事業の進捗状況も踏まえ、スピード感をもって議論を進めていただきたい。防衛上の観点も含めた必要性や整備効果、各施設の配置も含めた整備方法などについて、しっかりと議論する必要があると考えている。
- 第二滑走路の有無は、空港運営の民間委託、ターミナルビルの建て替え、小松市の土地区画整理事業のすべてに関係する大きな問題であり、まずは、県の来年度の国家予算編成に係る重点事業・政策提案に盛り込み、調査を始めていただきたい。
- 第二滑走路について、まずは調査からだと思うが、県として、国に対して、どのように働きかけるのかを考えていかなければならない。

3. ターミナルビルについて

- 現在のターミナルビルは、建築後 40 年近く経っており、更新について、考える時期にあると思うが、小松空港の国際線の充実を考えた場合、現在のビルでは、国際線エリアが狭く、改善が必要。その際、第二滑走路の整備如何によっては、ビルの規模や移転についても、検討が必要となる。
- 新型コロナウイルス感染症が落ち着けば、インバウンドも含め、観光需要が高まることが想定されるところ、現在のターミナルビルは手狭であり、第二滑走路の整備や空港運営の民間委託の導入に関わらず、近いうちの建て替えが必要だが、第二滑走路の有無により、位置も規模も変わってくる。また、建て替えに当たっては、飛行機の搭乗客だけでなく、買い物あるいは食事に、北陸 3 県から集まってくるようなターミナルビルにしなければならないと思う。

4. 空港運営の民間委託（コンセッション）について

- 着陸料が入らず、路線をどこまで増やせるか見通せない中では、空港運営を引き受ける企業は極めて少ないのではないかと思うが、第二滑走路が近いうちに整備されるのであれば、小松空港のコンセッションは、引く手あまたになるのではないか。

- コンセッションの意義は、ターミナルと滑走路の一体的な運営に当たり、民間のノウハウや知恵を導入していくことにあるところ、近年コンセッションを導入した国内の各空港は、新型コロナウイルス感染症という予想外の事案への対応に苦慮している。こうした現状を踏まえると、コンセッションの導入の是非について、今すぐ結論を出す必要はないのではないか。加えて、小松空港については、第二滑走路の有無により、コンセッションのやり方が大きく変わる。

- 実際にコンセッションの手続きに入る前に、地元で方向性を決断するというプロセスが大事であり、民間が出来ることや、どのような方向で展開できるのかといったことについて、情報を集め、その情報を元に、地元で議論することになるのではないか。

5. その他

- 外国人観光客の入国制限が緩和され始めていることから、今後の地方空港での国際線の運航再開に備え、航空会社や相手国に時期をとらえて積極的にアプローチしていただきたい。

(以 上)